

会 議 録

会 議 の 名 称	弘前市いじめ防止等対策審議会第2回定例会議
開 催 年 月 日	令和5年8月22日（火）
開 始 ・ 終 了 時 刻	午後3時30分 から 午後5時 まで
開 催 場 所	岩木庁舎2階 会議室4
議 長 等 の 氏 名	会 長 中村 和彦
出 席 者	副会長 福島 裕敏 委 員 鍋嶋 正明 委 員 大里 絢子 委 員 大湯 恵津子
事 務 局 職 員 の 職 氏 名	学校教育推進監 森 尚生 学校指導課長 鈴木 一哉 教育センター所長 成田 頼昭 学校指導課長補佐 佐藤 一晃 学校指導課指導主事 齋藤 貢一
会 議 の 議 題	(1) 1学期中の「いじめ」に関する状況報告 (2) 「いじめ防止推進法に基づく取組」の変更 (3) 「いじめに係る報告書」等の様式の変更
会 議 資 料 の 名 称	・資料1 令和5年度 弘前市立小・中学校のいじめの状況 ・資料2 いじめに係る報告書
会 議 内 容 (発 言 者 、 発 言 内 容 、 審 議 経 過 、 結 論 等)	(議長) 「本市における『いじめ』に関する状況報告」及び「審議」については 個人情報が含まれることから、運営規則第4条第4項に基づき、これを 公開しないことによろしいか。 (異議なし)

(議長)

初めに、令和5年度1学期中における「いじめ」に関する状況報告について、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

まず、これまでたくさんの御意見をいただいた「いじめに係るアンケート調査の様式案」について、7月の弘前市立小・中学校長会義で説明し、いじめの未然防止や初期対応の改善、各校のアンケート様式の再考等の依頼も含め、全市立小・中学校にデータでも配付した。これまでの御協力に感謝する。

では、今年度4月から7月までの市立小・中学校のいじめの状況について報告する。

「いじめの態様」では、小・中学校とも、①の「冷やかし・からかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」の項目が最も多く、割合としては昨年度を上回っている。

機会を逃さずに指導することはもちろんのこと、普段の学校生活の中で、共感的な人間関係の育成や、安全・安心な風土の醸成を図ることが重要であると考えている。

次に多い項目は、小・中学校ともに暴力行為である。小学校は昨年度を大きく上回っている。

令和3年度の国の調査では、小学校における暴力行為発生件数が過去最多となり、平成29年度からは中学校を上回った。この傾向は弘前市も同じであり、学校行事や部活動など、様々な活動がコロナ禍以前に戻りつつある中で、コロナ禍における生活経験やコミュニケーション能力の不足から、対人関係や集団活動に対応できず、ストレスを抱えている児童生徒が増えていることが原因の一つと捉えている。

市教育委員会では、市立全小・中学校での計画訪問の際に、一人一人の居場所を大切にしたい学び合う授業づくりと、互いの違いを認め・生かし、みんなが安心して過ごせる集団づくりに取り組むよう指導・助言をしている。また、生徒指導の研修会等において、いじめの疑いがある場合は、その段階で積極的に認知し、早期に対応することの重要性について周知に努めた。

次に、いじめ発見のきっかけについて報告する。

今年度は、小・中学校ともに、被害児童生徒の保護者からの訴えや相談で認知したものが最も多くなっている。

次に多いのは、小・中学校ともに学級担任または学級担任以外の教職員となっており、教室内外で起こったいじめに早期に対応することができていると捉えている。

一方で、小・中学校ともに本人から学校教職員への直接的な訴えが減少し、小学校では他の児童生徒からの情報、中学校ではアンケートの情

報が増加していることが特徴である。

(議長)

委員の皆様から意見や質問はないか。

(委員)

個に応じた指導の在り方について、保護者や関係機関との連携、支援体制を含め、対応を考えていくことが必要である。

(委員)

特別なケアが必要な子どもについては、支援の詳細が分かるような報告が必要であると思う。

(議長)

次に、「いじめ防止対策推進法に基づく取組の変更」についての説明をお願いします。

(事務局)

経過報告をさせていただく。「重大事態」や「再調査」への対応については、教育委員会内で検討を重ねている最中である。今後、更に検討を重ね、1月に開催予定である第3回本定例会議において御報告したいと考えている。

(議長)

委員の皆様から意見や質問はないか。

(委員) 特になし

(議長) 続いて「いじめに係る報告書等の様式の変更」についてお願いします。

(事務局)

いじめの報告書について、現在使用している様式の課題を踏まえ、変更案を作成したので御説明する。

現在、いじめとして事実確認ができていない事案であっても、いじめの疑いがある段階で様式1-1を提出し、後日、必要に応じて様式1-2で詳細な内容を報告、または「様式2 月ごとの報告書」でまとめて報告することとしている。

しかし、未だにいじめと判断してから提出する学校や、いじめではなかったと判断して未提出の学校がある。また、この報告書は、国の「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」や県の「児童生徒指導状況報告書」を学校が作成する際の根拠資料ともなるが、それらの項目と対応していない部分があり、市教育委員会では把握している数値と学校から提出される数値に相違が出ている。

学校の報告書作成と市教育委員会の情報収集が、効率的で的確にできるように報告書の様式を改善したい。御意見等をお願いします。

(委員)

様式1-1は、とりあえず「いじめが疑われる」と思ったときに提出する。そして、学校が「いじめだと認識」したときに様式1-2を提出するという捉えでよいか。

(事務局)

そのとおりである。

(委員)

「いじめではない」という報告の記載箇所が、様式2にはないと思う。また、様式1-1、1-2が、それぞれにどのような情報を求めているのか、そして、それぞれがどのような機能を果たしているのだろうか。

(委員)

県に報告することにも配慮した対応が必要ということか。

(事務局)

国や県への報告対応は必要である。また、学校から様式1-1の提出の遅れが多いという現状は課題である。詳しすぎるくらいに記述された様式1-1が提出されることもあるが、市教育委員会としては、まず、学校が早急に様式1-1を提出し、その後に詳しく調査して様式1-2を提出してもらうという手順を踏めば、情報収集が迅速かつ効率的になると考えている。

(委員)

事案発生日の基準は何か。例えば、子どもがお母さんに言った日か、いじめが始まった日か。

(委員)

正確に覚えていないこともあると思う、4週間前、何月頃という表現等でもいいということか。

(事務局)

そうである。発生日は県等への報告は不要である。

(委員)

早急に報告してほしいのであれば、児童名や発生場所が「不明」等の記入ができるような様式であればよい。

(事務局)

様式1-2の提出が少ないのが現状である。学校は様式1-1の作成をしっかりと行いたいと考えているところがある。速やかに提出してもらうために様式1-1を簡易にすると様式1-2は必ず提出しなければならない。そうすると学校の負担が大きい。逆に様式1-1を詳しくすると提出が遅れる。まずは早く情報を得たいと考えているが、そうすると市教育委員会から電話等で学校に聞き取りすることが増えるのではないかとも思う。

(委員)

様式2で詳しい記述を求めるのであれば、様式1-2は不要ではないか。様式2を待つことの課題はあるか。

(事務局)

様式2は月ごとの提出なので、タイムラグがないとは言えない。様式1-1に書ききれないことを様式1-2で報告することになっているが、学校としては様式1-1を詳しく作成しているのが現状である。ただ、様式1-1の提出が遅れる学校は、以前に比べると少なくなっている。

(委員)

学校現場で気を付けて子どもを見るようになったことが、遅れる学校が少なくなった要因であると考ええる。

(事務局)

提出はワード形式で求めていたが、今回からエクセル形式としたい。県への報告が速やかにできるし、チェックも容易となる。学校としても市教育委員会としても負担が少なくなると考える。ただ、メールの提出にすると、作成後に管理職のチェックを得ないままに提出することも想定されるため、適切なルーティンを設定したい。

(委員)

フォーマットを変更して、やりやすさが増えるということには賛成である。

(事務局)

教育相談やアンケート調査で、多くのいじめの疑い事案や過去のいじめの事案が発覚し、報告が遅れるケースもある。

(委員)

きちんと調べ上げないと報告できない、と考えている学校はあると思う。

そうすると提出は遅れるはずである。様式1-1と1-2の重みが混在しているのではないか。

(委員)

様式1-1が簡単な表記で提出されても、受け取る側からすると、様式1-2を待たないと何も分からないという状況になってしまう。市教育委員会が、様式2で必要な情報が把握できるのであれば、様式1-2は不要だということになる。ただ、深刻な内容であるのに、様式1-1は受け取ったが、月に1回提出する様式2での報告まで分からなかったということが危惧される。だからといって、様式1-1が提出されるたびに市教育委員会が学校に聞き取りをするのは大変な話である。

(委員)

様式2は事案ごとの報告となっていないので、それぞれの事案の追

跡が難しい。様式1-1等と関連付けて事案の経緯を把握するのか、様式2のような集約した形にするのか、どちらも大切だが、学校の負担を減らす方法を考える必要がある。

(委員)

様式1-1で最初に把握したいことは何か。

(事務局)

何があったのか、ということである。

(委員)

国や県への報告の様式に即した形で、まず、こういう報告がありました、ということ把握するのが、様式1-1の目的だと捉えてよいか。

そして、それが整理しやすくなれば、学校と教育委員会の捉え方が異なり数値がずれるなどの課題がなくなる。それはいい方向である。

ただ、その後のフォローが追える仕組みはどうかを考えると、様式2に依存せざるを得ない。エクセルのシートに様式1-1、1-2、様式2がシートに入っていて、経緯を記入していくような形にはできないだろうか。

報告のための情報収集と解決や対応のための情報収集が混在しないようにしたい。

(委員)

経緯をどのように記述すればよいのだろうか。どの程度の内容をどこまで書けばよいのか。

(委員)

そこが各学校にきちんと周知されないと改善できない。

(委員)

長文になっても必要な情報が入っていて、早く提出してもらえればよいのだろうが、学校側は、書きにくいのだと思う。

(事務局)

様式1-1での報告から時間をおいて様式1-2が提出される。受け取る側としては、様式1-1とセットにしなくても、様式1-2で事態の概要を知ることができるようにしたい。そのため、様式1-1と1-2に同じ内容を記載する部分が必要になり、学校が作成する際の手間になると考えている。

(委員)

自動で入力されるようにすればよいのではないか。

(委員)

様式1-1に概要を記載する欄を無くし、時間のかかる文章作成を減らしてみてもどうだろうか。概要を書くから遅れるのではないか

(委員)

「概要」とするといろいろなことを記載しなければいけない。事態

の深刻さを把握したいのであれば、様式1-1は「いじめの対応の具体」「大まかな内容」という設問がよいのではないかと。

(委員)

「概要」ではなく「具体的な内容」という設問がいいと思う。

(委員)

特別支援学級在籍かどうかは、記載する必要があるのではないかと。

(委員)

通級指導についても把握すべきではないかと。

(事務局)

記入例に示すことは可能である。

(委員)

各学校からのデータの提出手段だが、セキュリティさえしっかりしていればエクセルが圧倒的に早く修正もしやすい。また、教育委員会で集計資料等の作成が効率化できるような様式であればなおよい。何に利用するための情報なのかを考慮すれば、様式に求める内容が決まってくる。また、学校指導課がフォローするための手段として活用したいのであれば、それに応じた情報を記載してもらえばよい。

(委員)

アンケートフォーム等の活用も考えられる。

(議長)

他に意見はあるか。ないようなので、これで本日の協議会を修了する。